

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 七野会	代表者	井上ひろみ	法人・ 事業所 の特徴	利用者の7割程度が独居もしくは高齢者世帯。平均年齢88.4歳。平均介護度は2.4。法人理念である、『その人らしく』地域や住み慣れた自宅で暮らし続けられる事を大切に、日々援助にあたっています。
事業所名	小規模多機能施設 和泉の家	管理者	山村多恵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	1人	16人	2人	22人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	引き続き会議内での確認を行いながら、日々意識を持てるようにする。	少し話す機会はあったが、しっかりと確認や振り返る機会は持てなかった。	出来ている事、出来ていない事を確認し真摯に向き合っているのが分かる。	いつでも確認ができるように、総括表を目に付くところに貼っておく。会議で確認をしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	環境整備担当を中心に整備を進めていく。安心してご利用いただけるように、掃除や消毒作業などを行い清潔な環境を整える。	掃除や消毒作業は日々出来ている。環境整備に関しては、担当を置き取り組んでいる。進んでいない部分もある。(気になるところは個人により様々である)	ご利用者が過ごしやすい様に整理されている。落ち着いた温かい雰囲気の影響。床に物が置いてあるのが気になる。	個々の意見を積極的に話し、検討する。それで決めたことは、だれが、いつまでにするのか等決め役割分担を行い進めていく。環境整備中心に計画を立て指示をだしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナ禍でも出来る関わりや取り組みを模索する。和泉だより含めこちらから発信できるツールづくりを検討する。	和泉だよりはなかなか作成できていなかった。何かできないかと試行錯誤し、雑巾づくりに取り組んだ。(数が溜まれば寄付の予定)	新聞づくりや子どもに配れるものを作成するなど、施設全体で協力しつつ、地域への発信や交流を検討しては。	和泉だよりを計画的に出す。糸屋デイとも協同しつつ、施設前や公園のゴミ拾いをご利用者で行うなど取り組みを検討。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ご家族等に教えて頂く、また訪問時に地域に出ることで、繋がりや地域の特徴を知っていく。地域の取り組みや動きを見ながら出向けるかどうか検討していく。	訪問にて地域に出る事は多いが、催し等に出向くことは出来ていない。また、ご家族とゆっくりお話する機会も作れていない。(コロナ禍)	地域の困難ケースに向き合い、チームでサポートしている。	引き続き、ご家族等にこれまでの暮らしを教えて頂く。(生活歴アンケートの活用)また訪問時に地域に出ることで、繋がりや地域の特徴を知る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	コロナ禍であり書面での開催や意見集約になる可能性が高い。情報や運営状況がわかりやすいよう書面作成し、ご意見を頂くようにする。	書面開催になることが多かった。状況や様子がわかりやすい様にと意識をして資料作成に取り組んだ。	会議内はレジュメに添って分かりやすく説明できている。会議を行う上で、地域の為の会議にもするならば準備や工夫も大切。	引き続きわかりやすい資料づくりを心掛ける。地域の高齢者のことや地域の状況などを把握し、協同していく。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練の実施状況を把握。避難訓練の結果を活かして対応策を検討する。緊急連絡ファイル作成を進める。	緊急連絡ファイルの作成は進んでいる。避難訓練時、消防署からのアドバイス等受け、今後検討中。	防災梯子が降りてくるところに植木鉢等があるが…。2階という場所からの避難は問題が多いので、色々と検討が必要では。	災害・状況別の対策を考え、シミュレーションを行うことで備える。